

第19回 3階小ホールとスタインウェイ グランドピアノ

1992年の新校舎増築の際、3階に小ホール(202 m²~240 m²)を設計したのは、長年に亘り然るべき集会場を必要としていたからであった。体育館は週日満杯のため(小学部 18 学級 x 体育 1 学級週 3 時間=週 54 時間、中学部はランカー校舎借用)、雨天時など特に低学年児童が自由に駆け回って遊んだり、室内遊戯の出来る広い部屋が望まれていたこと、或いは学年全員(120名前後)収容可能な部屋、保護者が集会できる部屋、小中規模の催し物や舞台発表の出来る部屋、等の要望を一挙に解決するための決断であった。

因みに舞台裏壁からトイレ前のドアまでの全面積は 387 m²で、座席椅子は 242~280 設置可能。尤もカーペット敷きで天井がそれほど高くないこの小ホールは、音響効果の点から本来演奏会用に作られたものではなかったが、横幅 9 m x 奥行き 6 m の舞台に、カワイ楽器ドイツ社からフルコンサートグランドピアノ(276cm)の、またレーボックピアノ社からはスタインウェイ&サンズ社製フルコン(D型 274cm)のワンランク下のC型(227cm)の、夫々非常に便宜の図られたオファーが相見積り価格として提示された。審議の結果カワイ楽器からは既に各教室用の多数のアップライトピアノや小中の音楽室に同社のグランドピアノを購入していることもあり(「JISDの宝」第17回「33台のピアノ」を参照)、この度は折角の機会なのでドイツ製のピアノを購入することにした。

こうして「雷鳴からナイチンゲールの歌声まで」と言われる幅広い表現と豊かな音量、艶(つや)やかな音色を生む、名器スタインウェイのグランドピアノC型が同年6月に納入された。価格はレーボック社の安田昌弘氏(当時)のご便宜もあり8万6千マルク(現在なら4万3千ユーロ、約600万円)で、校内にある教育用単体設備としては最高額かもしれない。普通の学校なら(私立校でも)先ずは望めない理事会の価値認識と有難い決定であった。

このピアノのいわば公的な弾き初め式が「日本週間」の一環で1993年10月5日に父母会主催(三重野昌子委員長)で体育館で行われた。演奏者は本校校歌作曲者の杉谷昭子(すぎたにしょうこ)さん(「JISDの宝」第2回「校歌」)で、入場券売上げの6100マルク(3050ユーロ、約43万円)はこのグランドピアノ購入費の一部にと全額学校に寄付されて、出席されていた稲川照芳総領事、河島彦明理事長、松田紀文校長を初め多くの方々に感銘を与えた。

それから凡そ8か月後の1994年5月末、デュッセルドルフ市で第1回クララ・シューマン国際ピアノコンクールが開かれ、偶々(たまたま)その審査員をしていたマルタ・アルゲリッチさん、ネルソン・フレイレさん、杉谷昭子さんが自分達の練習の場所を照会して来て、5月28日(土)から30日(月)の3日間、小ホールと旧校舎の音楽室で練習された。「世界のピアノの女王」が3日間も来校されスタインウェイで練習して戴けたのは大変嬉しい名誉なことであった。



左から杉谷昭子さん、ネルソン・フレイレさん、マルタ・アルゲリッチさん、岡田裕事務局長

To the international Japanese
School and Mr. Okada, thank
you so much for your help.
It is a fantastic atmosphere
here. I hope to come back.

Marta Argerich
Mai 94

日本学校と岡田様へお礼のメッセージを
送る為、この日本学校に
寄附した、マルタ・アルゲリッチさんの自筆
メッセージ (1994年5月29日)

アルゲリッチさんの自筆メッセージ